

緩和ケアチームの取り組み ～口内炎予防キャンペーンを行って～

鈴木 貴子 今井 努 大澤 淳子 若田 達朗 中田 幸博 上野 恵子 浮田 雅人 天岡 望
柚原 一哉 今井 奨 上田 秀親 吉坂 陽子 中嶋 理恵 森下 裕子 村上一美
野々尻 優美子 若田 きみ子 中洞 純子 高田 良恵 奥御堂 麻紀 和田 功輔
高山赤十字病院 緩和ケアチーム

抄 録：緩和ケアチームへのがん治療でおこる副作用の口内炎に関する相談依頼が増えていた。そこで口内炎予防に対するチームでの働きかけとして口内炎予防キャンペーンを計画・実施した。H22. 3.15～4.15の1ヶ月間に院内にポスターを掲示・各職種の口内炎対策表の作成、口内炎発見時の対処法フローチャート作成と職員への協力依頼、キャンペーンカードの配布、口腔内の痛みにも効果のある当院処方軟膏の普及を行った。その結果ポスターを見た方からの問い合わせや、軟膏オーダー、病棟からの相談依頼があり、それらの対応を行った。終了後もフローチャートの活用によって、チームへの口内炎に関する相談がある。この取り組みで各職種の対策表を作成したことから、医師や看護師以外の職種からの相談もあった。また患者・家族、医療従事者を問わず問い合わせや相談もあり、キャンペーンを行なったことで口内炎に対する意識を高めることができたと考える。

検索用語：口内炎 口内炎予防 副作用 緩和ケアチーム

I はじめに

がん治療の副作用で発生する口内炎の症状がかなり進行してから発見される場合、痛みによる苦痛は強く、その対応は困難であることが多い。また、当院の緩和ケアチームへ化学療法、放射線療法における副作用として口内炎の痛みに関する相談依頼が増えているのが現状であった。そこで、緩和ケアチームで口内炎予防に対する働きかけが行えないかというチーム内の意見から「口内炎予防キャンペーン」を計画し実施した。

II 目的・方法

【目的】

患者・家族、医療従事者のがん治療の副作用で発生する口内炎に対する意識を高め、予防への理解を広める。

【方法】

期間：H22.3.15～4.15

内容：

キャンペーン前

- ・口内炎対策表(表1)・対処法(表2)・ポスター(図1)・薬局抗がん剤払い出し時配布用カード(図2)の作成
 - ・各職種の対応の検討
 - ・表1にある各職種へ説明・協力依頼
 - ・医師・看護師へ表2の説明・協力依頼
- キャンペーン中
- ・院内へポスター掲示(病棟、外来等合計26枚)
 - ・表1・2を参考に現場で各職種に対応してもらう
 - ・対応困難な事例に関して緩和ケアチームでのラウンド
 - ・薬剤師による抗がん剤払い出し時のカードの配布
 - ・以前口腔内の痛みにも効果のあった軟膏(デSPA・アネステジン)の普及

※緩和ケアチームメンバーがそれぞれの部署で説明し、各職種が特性を活かし口内炎予防や対処が行えるように働きかける。

表1 がん化学療法 放射線治療における口内炎対策について

緩和ケアチーム2010. 2. 25

	化学療法 放射線療法計画時 口内炎が起きそうな薬（5FU TS-1 メソトレキセート） を投与計画	化学療法 放射線療法が始まったら	口内炎ができれば
主治医 看護師	①口内炎も起こりうる 副作用だと説明 ②口腔内のトラブルがないか 確認 ③セルフケアができているか 確認 ④栄養状態の確認 （NST・歯科高診）	口腔内のトラブルがないか 声かけ 口腔内の保湿 アズノールでの予防うがい ※現在は頭頸部がんの場合エリ ンタールの内服を行うことによ って重症化が減少している	①痛みへのマネジメント 局所的 キシロカインビスカス デスバ・アネステジン軟膏 全身的 i) NSAID s 頓用 ii) NSAID s 定期頓用 iii) 医療用麻薬 ②摂食不良の患者に対して →NSTコンサルト ③口内炎を治す試み 下記参照↓ ④歯科コンサルト ⑤PSの低下など著しい時は放射線療法 の休止・中止の考慮
薬剤師			
放射線技師	口内炎などの副作用に対する オリエンテーション	口腔内トラブルないか声かけ	放射線療法継続可能か
栄養士	栄養指導 ビタミンBなどの摂取 乳製品を積極的に摂る	定期的な食事量のチェック	食事形態・温度・味などの工夫 （酸味禁止といった特殊指示等あり） 栄養状態の低下が著しい時、経管栄養 静脈内栄養の考慮
歯科 医師 歯科 衛生士	①口腔内の確認 ・虫歯 ・歯周病の有無 ・入れ歯の適合） ②セルフケアの確認 ・歯磨きの仕方 ・入れ歯の管理 ・舌苔）	口腔内の定期的なチェック	【口内炎を治す試み】 局 所：ステロイド軟膏 噴霧薬 うがい薬の使用 全身的：トランサミン セファランチン ビタミン投与 ※ステロイド使用時はカンジダに注意する
理学・ 作業療法士	あらかじめADLをチェック	口腔内トラブルないか声かけ	ADLの低下がないか放射線療法の 場合照射野周囲のリハビリ 口内乾燥の激しい場合唾液腺マッサージ 嚥下に問題ないか、不安等の傾聴

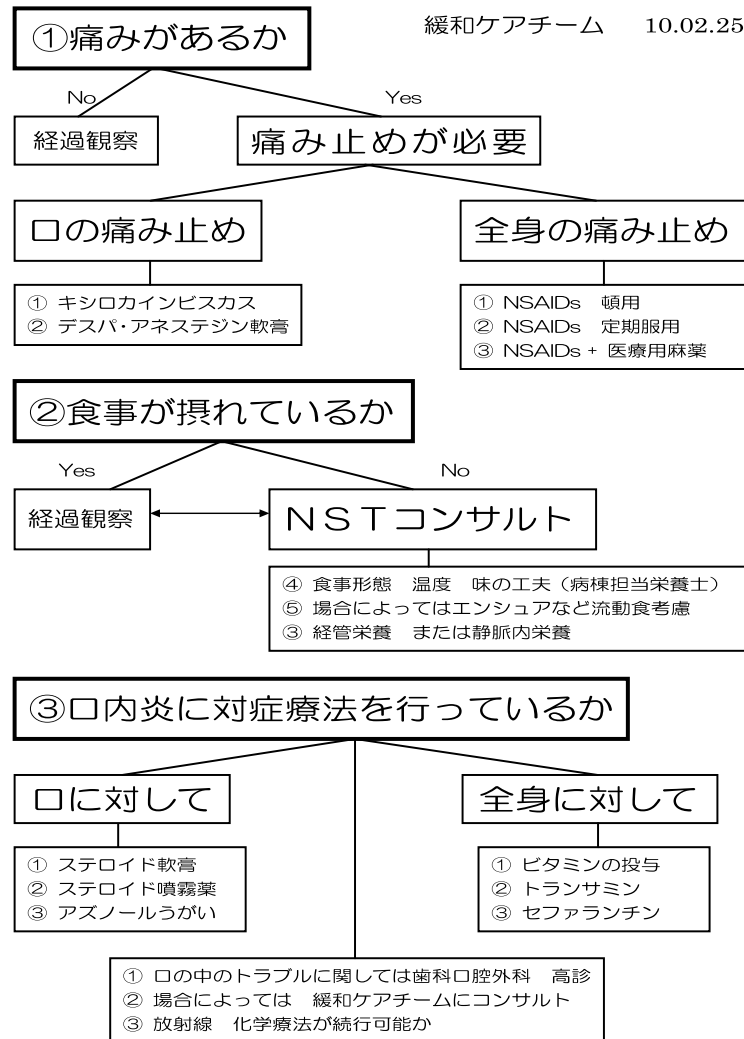


図1 口内炎予防キャンペーンポスター



図2 薬局抗がん剤払い出し時配付用カード

表2 口内炎発見時の対処法



Ⅲ 結 果

薬剤師：抗がん剤院内処方の方を対象として、38枚カードを配布。入院患者さんよりも外来患者さんから質問等があり意識が高い印象があった。

期間中に、デスパ・アネステジン軟膏のオーダーは3件。うち1件は軟膏がしみることによる苦痛で使用できなかったケースもあった。

放射線技師：放射線療法を行う患者さんの口腔内の様子をチェックし声かけを行った。期間中口内炎が2個あった患者さんがいたが術後の25回照射を増悪することなく終了した。

医師（内科医・口腔外科医）：放射線、化学療法を行う患者にはアズノールうがい液を処方し、患者にあらかじめうがいを励行してもらった。医師にとって本キャンペーンが口内炎および緩和ケアチームに対する意識付けになったようで、医師か

らの緩和ケアチームを介した口腔外科受診依頼があった。

看護師：キャンペーン中意識して患者さんに関わることが出来た。ADLが自立している患者さんに対しては口腔内のトラブルは訴えがあるまでは軽視しがちなため、予防のために常に意識的に対処表を使用し関わるのが大切だと感じた。病棟でも口腔内への関心が高まり早めの介入ができるようになった。

化学療法中の患者さんからアズノールうがい液をしっかりと使用すると、使用しない時と比べ口内炎の発現が少ないという訴えがあった。

栄養士：夫ががん治療中口内炎で辛い思いをしたという方が、現在自分も口内炎があるとポスターをみてがん相談室へ相談されに来院。がん相談室の依頼を受けて、食事指導を行った。

理学・作業療法士：がん治療中の患者さんに口

内炎で困っていないか意識的に関わった。

緩和ケアチーム：病棟より口内炎での相談依頼があった。すでに緩和ケアチーム薬剤師が介入していたため、口腔外科受診を勧めた。デスパ・アネステジン軟膏や他薬剤を使用した。

Ⅳ 考 察

1か月間という短い期間であったが各職種の対策表を作成したことで、それぞれの職種が意識的に口内炎予防キャンペーンに参加することが出来た。ポスターを見た方からの問い合わせがあったことや、病棟の看護師の今後に対策表を活用したいという意見もあったことから患者や医療従事者の口内炎への意識も高めることが出来たのではないかと考える。

治療期間だけの発症の場合、ただでさえ治療中の不安があるにも関わらず患者は口内炎等の副作用の発現に関して我慢されることがある。事前の説明や予防、期間中の観察で口内炎を少しでも予防できたら不安を軽減することが出来ると考える。そのためにも今回だけのキャンペーンではなく、今後も口内炎予防に対して意識的に関わっていきたい。

今回のキャンペーンという形をとることで、緩和ケアチームの活動の内容の一部を病院全体に周知させるよい機会となったと思われる。

またチーム医療の大切さを改めて実感することが出来た。それはそれぞれの職種が特性を活かして関わり、各職種間での協力が出来たからである。治療中の患者さんの思いの変化や不安は医師や看護師だけが感じているのではなく、関わる職種がそれぞれの関わりの中で感じていることだと考える。そのことを共有し合い協力して関わっていくことで、患者の安心につながるのではないかと考える。また口内炎トラブルに対しての対処法をそれぞれの立場から明文化したことや、口腔内トラブルに対するアセスメントをチャート化することにより、対処法が明確になり、各職種が積極的に口腔内トラブルに関われるようになったため、それらをまとめる緩和ケアチームの存在意義が確認できたと思われた。今後も緩和ケアチームを中心として各職場に働きかけ、各職種で協力する大切さを広めていきたいと考える。

Ⅴ 結 論

- 1、患者、医療従事者の口内炎予防に対する意識を高めることができた。
- 2、緩和ケアチームの活動の一部を周知することができた。
- 3、緩和ケアチームを中心に各職種で協力でき改めてチーム医療の大切さを実感できた。